

小出病院での地域研修を終えて

長岡赤十字病院 初期臨床研修医

鈴木沙奈恵

学生時代の地域実習で伺った小出病院に、研修医になった後も再び地域研修として3週間お世話になりました。コロナ渦で病棟業務が通常の半分も出来なかったことは非常に残念でしたが、鈴木善幸先生ご指導の下、外来業務中心に経験させていただいたことは非常に勉強になりました。確かに慢性期の病棟患者を持って在宅とのつながりを実感することはあまりできませんでしたが、むしろ在宅の中心を上村先生の訪問診療で他の研修医より多く経験させて頂いたと思います。お忙しい中、先生方には沢山のフィードバックを頂き有難うございました。

研修を通して実感したことは、プライマリ・ケアには幅広い医学的知識の存在が前提で、医療介入後の在宅での管理をうまくするにはキュアだけでなく今後の生活を見据えたケアが必要だということです。もれなく患者さんは皆 **multimorbidity** であり、全人的介入には患者さんの生活も把握している必要があると思いました。薬剤調整やリハなど1歩・2歩先を見据えた介入が大切で、しかし、患者個人個人に必要なケアは異なるためプライマリ・ケアは一筋縄にはいかず、多くの職種で協力して一次予防から三次予防まで取り組まなければならないと感じました。

最後に、病院全体が大変な状況の中研修を気づかい様々に工面して頂きありがとうございました。研修病院では経験できない事を多く経験できたと思います。今後施設や家庭から高齢者が搬送されてきた際、緊急の要素だけでなくその後の生活にも気を配れる医師になれるよう努力したいです。